

**【教科の目標】**

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- （1）社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- （2）社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- （3）言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

**【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）思考力・表現力、主体性、自己有用感**

- （1）社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使おうとする。
- （2）「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力・表現力を養おうとする。
- （3）言葉を通じて主体的に人と関わる中で、自己有用感を高めたり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとする。

**【評価の観点と評価方法】**

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上
評価方法	・定期テスト ・小テスト ・書写課題	・定期テスト ・小テスト ・授業課題（スピーチ・レポート・作文等）	・提出物 ・振り返りカード ・行動観察	4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
観点別到達度（%）	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合（%）	35%	35%	30%	

【学習計画】

	学期	月	単元, 教材名	小単元, 学習内容 (時数)	時数	他教科等との関連
国語	1	4 5	広がる学びへ	見えないだけ (1) アイスプラネット (4) 問いを立てながら聞く (1) 枕草子 (3) 思考の視覚化 (1) 多様な方法で情報を集めよう (5) 漢字1 熟語の構成・漢字に親しもう1 (1) クマゼミ増加の原因を探る (4)	1 15	社会  技術・家庭科
		6	多様な視点から	具体と抽象 (1) 魅力的な提案をしよう (5) 漢字に親しもう2 (1) 文法への扉1 (2) メディアを比べよう (3) 短歌に親しむ (4) 言葉の力 (2) 言葉1 類義語・対義語・多義語 (2) 言葉を比べる (1) 読書を楽しむ (2)	16	理科  総合的な学習の時間
		7	D 情報社会を生きる言葉と向き合う	盆土産 (4) 字のない葉書 (3) 聞き上手になろう (1) 表現を工夫して書こう (3) 表現の効果を考える (1) 言葉2 敬語 (1) 漢字2 同じ訓・同じ音を持つ漢字 (1) モアイは語る (4) 根拠の吟味 (1) 根拠の適切さを考えて書こう (4) 漢字に親しもう4 (1) 異なる立場から考える (1) 立場を尊重して話し合おう (4)	9	
		8	読書生活を豊かに人間のきずな	月夜の浜辺 (1) 平家物語 (1) 扇的 (3) 仁和寺にある法師 (3) 漢詩の風景 (3) 君は「最後の晩餐」を知っているか (4) 魅力を効果的に伝えよう (2) 漢字に親しもう5 (1) 文法への扉2 (2) 研究の現場によるこそ (1) 走れメロス (6) 漢字に親しもう (1) 文法への扉3 (2) 構成や展開を工夫して書こう (4) 言葉3 話し言葉と書き言葉 (2) 漢字3 送り仮名 (2) 国語の学びを振り返ろう (5) 木 (2) 学習を振り返ろう (3)	2 14	社会  技術・家庭科
	2	9	論理を捉えて	漢字2 同じ訓・同じ音を持つ漢字 (1) モアイは語る (4) 根拠の吟味 (1) 根拠の適切さを考えて書こう (4) 漢字に親しもう4 (1) 異なる立場から考える (1) 立場を尊重して話し合おう (4)	15	社会・理科
		10	いにしえの心を訪ねる	月夜の浜辺 (1) 平家物語 (1) 扇的 (3) 仁和寺にある法師 (3) 漢詩の風景 (3) 君は「最後の晩餐」を知っているか (4) 魅力を効果的に伝えよう (2) 漢字に親しもう5 (1) 文法への扉2 (2) 研究の現場によるこそ (1) 走れメロス (6) 漢字に親しもう (1) 文法への扉3 (2) 構成や展開を工夫して書こう (4) 言葉3 話し言葉と書き言葉 (2) 漢字3 送り仮名 (2) 国語の学びを振り返ろう (5) 木 (2) 学習を振り返ろう (3)	11	社会
		11	価値を語る	君は「最後の晩餐」を知っているか (4) 魅力を効果的に伝えよう (2) 漢字に親しもう5 (1) 文法への扉2 (2) 研究の現場によるこそ (1) 走れメロス (6) 漢字に親しもう (1) 文法への扉3 (2) 構成や展開を工夫して書こう (4) 言葉3 話し言葉と書き言葉 (2) 漢字3 送り仮名 (2) 国語の学びを振り返ろう (5) 木 (2) 学習を振り返ろう (3)	9	美術
		12	読書に親しむ表現を見つめる	走れメロス (6) 漢字に親しもう (1) 文法への扉3 (2) 構成や展開を工夫して書こう (4) 言葉3 話し言葉と書き言葉 (2) 漢字3 送り仮名 (2) 国語の学びを振り返ろう (5) 木 (2) 学習を振り返ろう (3)	1 27	理科 社会
書写	1	4 5 6 7 8	行書の書き方を学ぼう 行書と仮名を交えて書こう	点画の省略 (3) 筆順の変化 (3) 行書と仮名の調和 (2)	6 7	
		9 10 11	楷書と行書を選んで書こう	行書に調和する仮名 (2) 文字の大きさと配列 (2) 本のポップを書こう (1) 楷書と行書の使い分け (1) 場面や目的に応じた書き方 (2) 書き初めをしよう (1) 防災訓練に参加しよう (3)	7	総合的な学習の時間 特別の教科道徳
		12				
	3	1 2 3				
総時数		140 時間				

令和（ 5 ）年度 教科（ 社会 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】 社会的事象の地理的、歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。

【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）身近な地域の地理、歴史や具体的な事象の学習を通して社会に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して分析し適切に表現する能力と態度を育てる。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	定期テスト(年5回) 小テスト	定期テスト(年5回) 提出物(レポート課題等)	定期テスト(年5回) 提出物(ノート、ワーク) 振り返り(授業、テスト等)	
観点別到達度(%)	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合(%)	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元、教材名	小単元、学習内容(時数)	時数	他教科等との関連
1	4	オリエンテーション (地)日本のさまざまな地域	D 地域調査の方法(6)	18	技術・家庭科 理科 保健体育 特別 の教科道徳
	5		日本の地域的特色と地域区分(11)	22	
	6	(歴)近世の日本 ヨーロッパとの出会いと全国統一(8)	30		
	7	江戸幕府の成立と対外政策(6)			
2	8	(地)日本の諸地域	産業の発達と幕府政治の動き(8)	6	国語 保健体育・家庭
	9	(地)地域の在り方	九州地方(5)		
	10		中国地方(5)		
	11		近畿地方(5)		
	12		中部地方(5)		
3	1	(歴)開国と近代日本の歩み	関東地方(5)	29	技術・家庭科 技術・家庭科
	2		東北地方(5)		
	3		北海道地方(5)		
総時数	105時間				

令和（ 5 ）年度 教科（ 数学 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】

小グループを活用し基礎・基本の定着をはかり，数学的活動を通して主体的に課題に取り組む態度を育てる。

【教科のゴールイメージ】（つきたい力，資質・能力）

収集した情報を活用して，自分の考えを表現することができる。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で，他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり，技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力，判断力，表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり，思考力，判断力，表現力を身につけたりするために，自らの学習状況を把握し，学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら，学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●単元テスト</li> <li>●小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●単元テスト</li> <li>●小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期テスト</li> <li>●単元テスト</li> <li>●小テスト</li> <li>●アイテム集等</li> <li>●提出物</li> </ul>	
観点別到達度(%)	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合(%)	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元，教材名	小単元，学習内容（時数）	時数	他教科等との関連
1	4	式の計算	○式の計算(10)	16	理科  社会
	5		○式の利用(6)		
	6	連立方程式	○連立方程式(10)	17	
	7		○連立方程式の利用(7)		
8	1次関数	○1次関数(9)	19		
9		○方程式と1次関数(5)			
2	10	D 図形の性質の調べ方	○1次関数の利用(5)	19	
	11		○いろいろな角と多角形(9)		
	12		○図形の合同(10)		
3	1	三角形・四角形	○三角形(9)	19	
	2		○四角形(10)		
	3	確率	○確率(9)	9	
		データの分布	○データの分布(6)	6	社会
総時数	105時間				

令和(5)年度 教科(理科) 第(2)学年 年間指導計画

【教科の目標】

自然の事物・現象に関り、理科の味方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

【教科のゴールイメージ】(つきたい力, 資質・能力) 主体性・思考力・表現力・自己有用感

自然の事物・現象への理解と探究心を持ち, ICT 機器を活用し, 科学的に説明しようとする。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で, 他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり, 技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力, 判断力, 表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり, 思考力, 判断力, 表現力を身につけたりするために, 自らの学習状況を把握し, 学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら, 学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	定期テスト 観察・実験レポート (記録の整理, 資料の活用, 記述内容) パフォーマンステスト	定期テスト 観察・実験レポート(記述内容) ワークシート(記述内容) プレゼンの内容	振り返りシート 観察・実験レポート(記述内容) ワークシート(記述内容) 行動観察(発言, 記述, 行動内容)	
観点別到達度(%)	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合(%)	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元, 教材名	小単元, 学習内容(時数)	時数	他教科等との関連
1	4	化学変化と原子・分子	○物質のなり立ち(8)	39	社会 技術・家庭科
	5		○物質どうしの化学変化(10)		
	6		○酸素がかかわる化学変化(8)		
	7		○化学変化と物質の質量(8)		
2	8	○化学変化とその利用(5)	39		
	9	D 天気とその変化		34	
	10	○気象の観測(12)			
3	11	○雲のでき方と前線(10)	34		
	12	電気の世界		28	
	1	○大気の動きと日本の天気(17)			
1~3	2	生物のからだのつくりとはたらき	○静電気と電流(6)	28	特別の教科道徳 保健体育
	3		○電流の性質(14)		
	3		○電流と磁界(14)		
総時数	140 時間				

令和（ 5 ）年度 教科（ 音楽 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】 ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる。

○多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を育てる

○多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる。

【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）

生徒自らが音楽への見方・考え方を働かせ、仲間と協働しながら、音楽や音楽文化に豊かにかかわろうとする。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	・ペーパーテスト（定期テスト） ・技能テスト（歌や器楽テスト） ・行動観察（練習・取組の過程や内容）	・ペーパーテスト（定期テスト） ・ワークシート（記述内容） ・レポート（記述内容）	・振り返りシート ・レポート（記述内容） ・ワークシート（記述内容） ・行動観察（発言、記述、取組様子）	
観点別到達度（%）	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合（%）	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元、教材名	小単元、学習内容（時数）	時数	他教科等（道徳）との関連	
1	4	旋律の種類、パートの役割等、音楽の構造を表現に生かして歌おう	○夢の世界を ○翼をください	3	国語	
	5	歌詞や曲の背景と音楽のかかわり アルトリョガーの基本を身につけよう	○夏の思い出 ○夏の日の贈りもの ○アルトリョガー 高い音(サミング)、アーティキュレーション	3		
	6	曲の構成に注目して聴こう	○交響曲第5番	2		
	7	言葉の抑揚や構成を工夫して音楽を創ろう	○My Melody	3		
	8		○let's create			
2	9	日本と諸外国の歌の特徴(発声の違いなど)を生かして歌おう	○荒城の月 ○サンタルチア ○Joyful Joyful	4	社会（歴史） 英語 特別の教科道徳	
	10	合唱のハーモニーを楽しみ、合唱で心を通わせよう	○学年合唱曲 ○クラス合唱曲	4		
	11 12	旋律の重なり合いのおもしろさを味わおう 日本と西洋の総合芸術に触れ特徴	○フーガト短調	2		
3	1	や迫力を感じ取ろう	○オペラ「アイダ」 ○歌舞伎「勧進帳」	4	社会（歴史） 社会（地理）	
	2	日本の伝統芸能に親しもう	○文楽「新版歌祭文」より	2		
	3	D音楽と生活のつながり、社会における意味を知って音楽を楽しもう 心をこめて伝わる合唱にしよう	○日本の各地の伝統芸能 ○世界の諸民族の音楽 ○My Own Road～僕が創る明日、ぜんぶ 他	2 3		
総時数		35 時間				

令和（ 5 ）年度 教科（ 美術 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育とともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）

- （1）楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度が向上する。
- （2）対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け意図に応じて創意工夫し、美しく表現する能力が発揮できる。
- （3）自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の力が付く。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	・ 作品（完成度） ・ 期末試験（記述問題） ・ 期末試験（実技問題）	・ 作品（アイデア） ・ アイデアスケッチおよび下描 ・ 期末試験（実技問題）	・ 授業への取り組み ・ 提出物 ・ 授業態度	
観点別到達度（%）	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合（%）	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元、教材名	小単元、学習内容（時数）	時数	他教科等との関連
1	4	・ D鑑賞 ・ 鑑賞 ・ デザイン ・ デザイン ・ 学期のまとめ	○ 榮久庵 憲司・プロダクトデザイン	1	技術・家庭科 社会 数学 総合的な学習の時間
	5		○ 生活の中の美術とデザイン 企業ロゴ・マークから学ぶ「美術」の役割	1	
	6		○ ロゴ・マーク制作	6	
	7		○ 修学旅行しおり表紙デザイン	3	
	8		○ 学期のまとめ	1	
2	9	・ 鑑賞 ・ 造形 ・ 鑑賞 ・ 絵画 ・ 学期のまとめ	○ 日本の美	1	社会、国語
	10		○ 和菓子製作（粘土造形）	5	
	11		○ 版画の種類と代表的作家について	1	
	12		○ 版画制作（凸版画） ○ 学期のまとめ	5 1	
3	1	・ 鑑賞 ・ 工芸 ・ 学期のまとめ	○ 紙の加工による立体表現（ロバート・サブダ）	1	数学、理科 技術・家庭科
	2		○ ポップアップカード製作	8	
	3		○ 1年間のまとめ	1	
総時数	35 時間				

【教科の目標】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）

合理的で安全な練習や活動の中で、自身の体の変化に気づき、身体表現としての技能を身につける。できる・わかるための課題を発見・解決する過程で仲間と協働し、主体的に学習に取り組む。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度（5段階評定）
評価内容	各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けているか。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を身に付けているか。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養っているか。	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	定期テスト 実技テスト 学習ノート・ワークシート	定期テスト 振り返りカード・ワークシート 行動観察	振り返りカード・ワークシート 行動観察	
観点別到達度（%）	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合（%）	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元、教材名	小単元、学習内容（時数）	時数	他教科等との関連
1	4	体づくり運動	○各運動の基本的な行い方を知る	10	技術・家庭科  社会 特別の教科道徳
	5	陸上競技（短距離走・リレー）	○競技会：グループ対抗，個人対抗	10	
	6	球技（ベースボール型）	○自分やチームの課題を見つけ、課題解決に向けて練習を工夫する	10	
		保健（傷害の防止）	○傷害の原因と防止	5	
	7	水泳	○色々な泳法に挑戦する	5	
2	8				
	9	D 球技（ネット型）	○自分やチームの課題を見つけ、課題解決に向けて練習を工夫する	10	
	10	武道（剣道）	○身につけた基本となる技を使って攻防を楽しむ	8	
	11	陸上競技（走り幅跳び）	○練習課題を決めて練習	6	
		保健（傷害の防止）	○傷害の原因と防止	5	
	12	D 器械運動（跳び箱運動）	○組み合わせた技を滑らかに演技する	9	
3	1	球技（ゴール型）	○自分やチームの課題を見つけ、課題解決に向けて練習を工夫する	10	
		体育理論（スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方）	○スポーツが体と心に及ぼす効果	3	
	2	陸上競技（長距離走）	○記録に挑戦/相手と競争	8	
	3	保健（健康な生活と疾病の予防）	○生活習慣病とその予防，薬物乱用と健康	6	
総時数	105 時間				



令和（ 5 ）年度 教科（ 技術 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する。

【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）

エネルギー変換の技術と、情報の技術に関する基礎的な理解と、それらに係る技能を身に付け、課題を解決する力を養う。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	ワークシート 小テスト 定期試験 制作品	ワークシート 設計図 定期試験 制作品	ワークシート 設計図 行動観察	
観点別到達度(%)	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合(%)	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元, 教材名	小単元, 学習内容(時数)	時数	他教科等との関連
1	4	B 生物育成の技術	2 生物育成の技術による問題解決	4	理科
	5		3 これからの生物育成の技術	1	
	6	C エネルギー変換の技術	1-1 生活や社会とエネルギーの技術	1	理科
	7		1-2 エネルギー資源の利用	3	
8	1-3 電気の利用		5		
9	1-4 運動の利用		3		
2	10		2 エネルギー変換の技術による問題解決	6	
	11		3 これからのエネルギー変換の技術	1	
	12				
3	1	DD 情報の技術	1-1 生活や社会と情報の技術	1	社会
	2		1-2 情報とコンピュータ	4	
	3		1-3 情報の表現と伝達 1-4 情報セキュリティと情報モラル	3 3	
総時数	35 時間				

【教科の目標】

生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、衣食住に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する。

【教科のゴールイメージ】（つきたい力，資質・能力）

食生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技能を主体的に身につけようとする。また、これからの生活を展望して課題を解決しようとする。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	ワークシート（記述内容） ペーパーテスト（定期テスト、小テスト） 調理実習 実技テスト	ワークシート（記述内容） ペーパーテスト（定期テスト） 長期休暇の課題 プレゼンの内容	振り返りシート ワークシート（記述内容） 行動観察（発言、記述、行動内容） 長期休暇の課題	
観点別到達度（%）	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合（%）	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元，教材名	小単元，学習内容（時数）	時数	他教科等との関連	
1	4	D 食事の役割と中学生の栄養の特徴	①どうして食事をするのだろう	1	特別の教科道徳 特別の教科道徳 保健体育	
	5		②私たちの食生活	1		
	6		③栄養素ってなんだろう	2		
	7		④中学生に必要な栄養	1		
2	8	中学生に必要な栄養を満たす食事	①食品に含まれる栄養	2		
	9		②何をどれくらい食べればよいか	2		
			10	③バランスの良い献立作り	2	
				11	①食品の選択と購入	1
					②生鮮食品の特徴	1
	③加工食品の特徴				1	
	④食品の保存と食中毒の防止		1			
	12		日常食の調理と地域の食文化	①日常食の調理	2	
②肉の調理		4				
③野菜・イモの料理		4				
④魚の調理		4				
3	1	生活の課題と実践	⑤日本の食文化と和食の調理	2	社会 特別の教科道徳 社会 特別の教科道徳	
			2	⑥持続可能な食生活を目指して		2
			3	食生活の課題と実践		2
総時数	35 時間					

令和（ 5 ）年度 教科（ 英語 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

**【教科の目標】** 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことと言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

**【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）**

1. はっきりと話されれば、日常的话题について、話の概要をとらえることができる。
2. 日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。
3. 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。
4. 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。
5. 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。

**【評価の観点と評価方法】**

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	○定期試験 ○単語テスト ○リスニングテスト	○定期テスト ○パフォーマンステスト ・スピーキングテスト ・ライティングテスト	○パフォーマンステストに向けた取組 ○ノート ○振り返り ○行動観察	
観点別到達度(%)	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合(%)	35%	35%	30%	

**【学習計画】**

学期	月	単元, 教材名	小単元, 学習内容(時数)	時数	他教科等との関連
1	4	Unit0 My Spring Vacation	○動詞の過去形、過去進行形、There is	10	技術・家庭科(家庭)
	5	Unit1 A Trip to Singapore	○be going to, will, SV00, SV0C	14	
	6	Unit2 Food Travels around the World	○接続詞 when, if, that, because	14	
	7	D Unit3 My Future Job	○不定詞、It is ...+to	20	
2	8	Stage Activity 1 A Message to Myself in the Future	□10年後の自分へのメッセージを書く。	5	技術・家庭科(技術)
	9	Unit4 Homestay in the United States	○have to, 助動詞 must, 動名詞	15	
	10	Unit5 Universal Design	○疑問詞+to	12	
	11	Unit6 Research Your Topic	○比較表現	20	
3	12	Stage Activity2 Research and Presentation	□クラスで人気のあるものを調査・発表	5	技術・家庭科(家庭)
	1	Unit7 World Heritage Sites	○受け身	20	
	2	Stage Activity3 My Favorite Place in Our Town	□おすすめの場所の紹介	5	
3					
総時数	140時間				